

# 書 写

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	書写 1 0 6    2 0 6    3 0 6 4 0 6    5 0 6    6 0 6	B 5 変形 320	令和 5 年
17	教育出版	教 出◆	書写 1 0 7    2 0 7    3 0 7 4 0 7    5 0 7    6 0 7	B 5 328	
38	光村図書	光 村◆	書写 1 0 8    2 0 8    3 0 8 4 0 8    5 0 8    6 0 8	B 5 変形 324	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

# 書写

## 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊数	発行者の略称
18冊	東書、教出、光村

## 2 東京都立立川国際中等教育学校附属小学校の教育課程

### 【教育課程編成の基本方針】

「次代を担う児童・生徒一人一人の資質や能力を最大限に伸ばさせるとともに、豊かな国際感覚を養い、世界で活躍し貢献できる人間を育成する。」という教育理念を踏まえ、小学校から中等教育学校までの12年間を一体として捉え、児童・生徒の発達等に応じて柔軟な教育課程を編成する。

### 【書写における学習指導の展開】

- (1) 筆記具を正しく持ち、正しい姿勢で点画を意識し、筆順に従って書く力を身に付けさせる。
- (2) 我が国の豊かな文字文化を理解し、継承、創造していくための力を身に付けるとともに、鉛筆、筆、硯等の道具や紙にも関心をもつことができるよう、日本の伝統文化にふれる機会を取り入れる。
- (3) 書写する題材として、既習の俳句、短歌、漢詩、論語等を意図的に取り入れ、伝統的な言語文化にふれる機会を創出する。

## 3 教科書の調査研究

内容（調査結果は「別紙」）

調査研究項目（調査研究の対象）	対象の根拠
a 日本の伝統的な言語文化に関する事項の扱い	都立小中高一貫教育校教育内容等検討委員会報告書 第2章 令和5年度都立立川国際中等教育学校附属小学校教育課程に係る基本方針
b 世界の文字・言語の扱い	同上

### ※調査研究項目を設定した理由

- a 書写における学習指導の展開(2)では、「我が国の豊かな文字文化を理解し、継承、創造していくための力を身に付けるとともに、鉛筆、筆、硯等の道具や紙にも関心をもつことができるよう、日本の伝統文化にふれる機会を取り入れる。」としている。また、書写における学習指導の展開(3)では、「書写する題材として、既習の俳句、短歌、漢詩、論語等を意図的に取り入れ、伝統的な言語文化にふれる機会を創出する。」としている。そこで、日本の伝統・文化に対する関心や理解を深め、継承・発展させる態度を身に付けさせるため、伝統的な言語文化に関する題材がどのように扱われているかという視点で質的な調査する。
- b 「令和5年度都立立川国際中等教育学校附属小学校教育課程に係る基本方針」の「2（2）教育課程編成の基本的な考え方」の一つとして、「アイデンティティ確立のため、日本や世界の歴史の学習、日本の伝統・文化や異文化理解」としている。そこで、異文化に対する関心や理解を深め幅広い視野を養うとともに、外国語への導入の一助とするため、外国の人名、外来語がどのように扱われているかという視点で質的な調査する。

発行者の番号 略称		2 東書	17 教出	38 光村
内 容 a	第一学年	・「かん字のはなし」では、「日」「雨」「月」「田」などの漢字について、イラストで象形文字の成り立ちを紹介し、我が国の豊かな文字文化に関心をもつ教材を設定している。(P37)	・「なんのかたちからできたかん字かな」では、「木」「月」「山」「川」の漢字について、イラストから象形文字の成り立ちを紹介し、我が国の豊かな文字文化に関心をもつ教材を設定している。(P42)	・「かん字しらべたい」では、「山」「日」「川」の漢字について、イラストから漢字の成り立ちを紹介し、我が国の豊かな文字文化に関心をもつ教材を設定している。(P37)
	第二学年	・「えんぴつの作り方」では、鉛筆の作り方を紹介し、道具に関心をもつことができる教材を設定している。(P45)	・巻末では、筆について紹介し、道具に関心をもつことができる教材を設定している。(P41)	・「えんぴつのひみつ」では、材料や濃さの種類、鉛筆ができるまでを写真やイラストを添えて紹介し、道具に関心をもつことができる教材を設定している。(P40)
	第三学年	・「書いて味わおう」では、書写する題材として俳句を扱い、伝統的な言語文化に触れる教材を設定している。(P36)	・「俳句」では、書写する題材として俳句を扱い、伝統的な言語文化に触れる教材を設定している。(P39)	・「ことば」では、書写する題材としてことわざを扱い、伝統的な言語文化に触れる教材を設定している。(P36・37)
	第四学年	・「お礼の気持ちを手紙で伝えよう」では、前文、本文、末文、後付けなどの手紙の形式や封筒の書き方を紹介し、我が国の豊かな文字文化を理解する教材を設定している。(P38・39)	・「学習発表会の案内の手紙」では、はじめのあいさつ、本文、結びのあいさつ、後付けなどの手紙の形式やふうとうの書き方を紹介し、我が国の豊かな文字文化を理解する教材を設定している。(P46)	・「手紙の書き方」では、初めのあいさつ、本文、結びのあいさつ、後付けなどの手紙の形式や封筒の書き方を紹介している。また、「はがきの表書き」では、はがきの書き方を紹介し、我が国の豊かな文字文化を理解する教材を設定している。(P40・41)
	第五学年	・「行の中心」では、小林一茶の俳句を扱い、伝統的な言語文化に触れる教材を設定している。(P31)	・「竹取物語」では、書写する題材として『竹取物語』を扱うとともに、「よろづの」「使ひけり」「なむいひける」などの古語を紹介し、伝統的な言語文化に触れる教材を設定している。(P15)	・書きぞめでは、『枕草子』を例示し、伝統的な言語文化に触れる教材を設定している。(P27)
	第六学年	・「書いて味わおう」では、書写する題材として「漢詩『春暁』」、「漢文『論語』」を扱っている。(P26・P32) また、「日本の文字の歴史」では、『竹取物語』の一部を写真で紹介し、伝統的な言語文化に触れる教材を設定している。(P38・39)	・「文字の旅」では、『浦島太郎』、『竹取物語』の一部を紹介している。(P18・19) また、『枕草子』を書くでは、書写する題材として『枕草子』を扱い、伝統的な言語文化に触れる教材を設定している。(P24・25)	・「用紙に合った文字の大きさと配列」では、書写する題材として小林一茶の俳句を扱い、伝統的な言語文化に触れる教材を設定している。(P14・15)

発行者の番号 略称		2 東書	17 教出	38 光村	
内 容 b	世界の文字・ 言語の扱い	第一学年	・「よこがき②」では、「クルミ、パン、ジュース、クッキー」の外来語を扱い、外国語の導入の一助となる教材を設定している。(P28)	・「かたかなのひょう」では、全ての文字に外来語を例示し、外国語の導入の一助となる教材を設定している。(P47・48)	・「かたかなのかきかた」では、「パン、ゼリー、オレンジ、スープ」の外来語を扱い、外国語の導入の一助となる教材を設定している。(P28・29)
		第二学年	・「にている文字のちがうところ」では、「フルーツ、メロン、ソーダ、ミカン、バナナ」の外来語を扱い、外国語の導入の一助となる教材を設定している。(P10・11)	・「画の方こう」では、「ラッコ、シーツ、ピザ」などの外来語を扱い、外国語の導入の一助となる教材を設定している。(P12・13)	・「ことば」では、レオ＝レオニの作品「スイミー」を提示し、異文化に対する関心を高める教材を設定している。(P16・17)
		第三学年	・ローマ字の表を掲載し、異文化に対する関心や理解を深める教材を設定している。(P43)	・ローマ字表を掲載し、異文化に対する関心や理解を深める教材を設定している。(P47)	・「横書きの書き方」では、ローマ字表とアルファベットの一覧を掲載し、異文化に対する関心や理解を深める教材を設定している。(P26)
		第四学年	・ローマ字の表を掲載し、異文化に対する関心や理解を深める教材を設定している。(P41)	・記載なし	・ローマ字表とアルファベットの書き方を掲載し、異文化に対する関心や理解を深める教材を設定している。(P43)
		第五学年	・「世界の文字いろいろ」では、「こんにちは」「猫」「えんぴつ」について、英語のラテン文字、韓国・朝鮮語のハングル、中国語の漢字等の6種類の文字で紹介し、異文化に対する関心や理解を深め幅広い視野を養う教材を設定している。(P38・39)	・「世界の『こんにちは』」では、韓国・朝鮮語、ヒンディー語、英語、日本語、中国語、ポルトガル語、ロシア語、アラビア語の「こんにちは」を発音と文字で紹介し、異文化に対する関心や理解を深め幅広い視野を養う教材を設定している。(P53)	・「身近な文字をさがそう」では、案内板やマンホールなどの写真を拡大して「Chiba Station」、「KOBE」などを示し、異文化に対する関心や理解を深め幅広い視野を養う教材を設定している。(P49)
		第六学年	・「日本の文字の歴史」では、中国で漢字が生まれたことを紹介し、日本や世界の歴史、日本の伝統・文化や異文化を理解する教材を設定している。(P38・39)	・「知りたいな世界の『書く』」「伝えたいな日本の『書く』」では、中国や韓国の授業、海外の教科書、アラビア書道や英語でのカリグラフィについて写真で紹介するとともに、日本の毛筆用具を英語で示し、日本の伝統・文化や異文化を理解する教材を設定している。(P①・1)	・「文字の歴史」では、中国で漢字が生まれたことを紹介し、アイデンティティ確立のため、日本や世界の歴史、日本の伝統・文化や異文化を理解する教材を設定している。(P29～31)